

これまでの指摘事項について

平成24年度第1回汽水湖汚濁メカニズム解明調査ワーキンググループの指摘事項

指摘事項	対応
難分解性 分解速度が算出できると思う。(中田委員)	シミュレーションに反映予定。
難分解性 由来について、文献サーチをすること。(山室委員)	今後、確認する予定。
難分解性・モデル 例えば植物プランクトンの動態をシミュレーションするとき、細胞内分泌の形で溶存態の有機物を出すというような計算だが、今後は易分解と難分解を割合などで計算しないと難しいと思う。(中田委員)	易分解と難分解などに分けて計算できるように、仕様を変更中。
モデル 難分解も易分解を分けて計算する必要がある。(中田委員) 流入河川についても難分解と易分解を分け、流量に応じて計算する必要がある。(山室委員)	同上
難分解性 斐伊川の窒素と磷は、比較的DON、DOPの割合は少ない。一方、CODは溶存態が多く、ほとんどが難分解性。そうすると、斐伊川から入ってくる難分解性のCとNとPの比率は、宍道湖内のDOC、DON、DOPの比率と大分違うと思うが、どうか。(中田委員)	今後、解析する予定。

平成 24 年度第 2 回汽水湖汚濁メカニズム解明調査ワーキンググループの指摘事項

指摘事項	対応
斐伊川連続調査 工事は水質にも影響しているはずなので、流量が少なくても濁りがあったときのデータ、特にリンはもう一度見直すべき。(石飛委員)	再度確認したが、結果は変わらなかった。
斐伊川連続調査 リンの LQ 式について、2 本がよいか 1 本がよいか、もう 1 回データ検討した方がよい。(石飛委員)	リンの LQ 式は 2 次式を用いると相関が良くなる。(資料 2-2 のとおり)
難分解性 得られた結果から、モデルの中の枯死速度が計算出来ると思う。(中田委員)	計算予定。
塩分成層 EC の断面図が急に变化しているのは、塩水の水塊が横に移動しただけの可能性はある。(中村委員)	移動した可能性が高いが、事例ごとの検証していない。
塩分成層 シミュレーションにより、塩分の流入量を予測が可能になると思われる。(山室委員)	実施予定。
これまでの整理等 61 ページのその他の欄③湖内の状況で塩水の侵入状況があるが、正確な表現ではないので、2 つの文章に分けた方がよい。(中村委員)	2 文に分けて表記。(資料 4 のとおり)
これまでの整理等 東風でも成層が破壊されることもあるので、表現方法に工夫して欲しい。(石飛委員)	成層が移動した可能性もあることを追加表記。 (資料 4 のとおり)
これまでの整理等 継続時間も重要なので、その記載も必要。(中村委員)	
これまでの整理等 増殖速度や優占種について、植物プランクトンの結果であるならば、植物プランクトンと明記を。(大谷委員)	植物プランクトンと表記。 (資料 4 のとおり)